

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和4年4月19日、和寒小学校・和寒中学校において、令和4年度全国学力・学習状況調査が実施されました。この調査は、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。調査の内容は、教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の2つです。本町の小中学校の結果は、全国平均と比較すると右記のとおりとなりました。

【平均正答率の全国との比較】

学校／教科	国語	算数・数学	理科
和寒小学校	上回っている	少し上回っている	上回っている
和寒中学校	上回っている	下回っている	少し下回っている

【国語】

小学校では、「知識及び技能」に関する「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が全国平均を上回っており、その中の漢字の読み書きについては正答率全国平均を大きく上回っています。また、「思考力・判断力・表現力等」に関する「読むこと」の平均正答率が全国平均を若干下回っています。中学校の平均正答率も、全国平均を上回っています。特に、「知識及び技能」に関する「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が、全国平均を大きく上回っています。語句の意味や漢字に関する正答率も高い傾向にあります。



算数科の少人数指導（和寒小）



【算数・数学】

小学校では、「図形」領域の正答率が高く、「図形の意味や性質、構成」に関する設問は全児童が正解していました。また、「変化と関係」の領域は、正答率が全国平均を下回っています。中学校では、「関数」の領域の正答率が全国平均よりも低く、「数と式」の領域の「自然数を素数の積で表すこと」、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、意味が成り立つ理由を説明すること」の正答率も全国平均を下回っています。



数学の授業（和寒中）

【理科】

小学校では、「エネルギー」を柱とする領域の正答率が全国平均を大きく上回っています。観点別では、「思考・判断・表現」の観点が高く、特に、「実験で得た結果を問題の視点で分析・解釈し、自分の考えを記述する」設問の正答率が全国平均を大きく上回っています。中学校で比較的正答率の高かった領域は、「生命」を柱とする領域で、正答率の低かった領域は「エネルギー」を柱とする領域でした。

【児童・生徒質問紙】

全国と比較して小学校・中学校ともに肯定的な回答が多かった項目としては、「地域の行事に参加していますか」、「授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使っていますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」、「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」などの設問があげられます。特に、地域行事への参加とICT機器の活用の項目は、昨年度に続き肯定的な回答が多く見られました。

また、「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（平日・休日）」の設問が、全国と比較して、小学校・中学校ともに否定的な回答が多い傾向にありました。

この調査を受け、各学校でさらに分析を行い、不定着部分の学び直しや授業の改善など、学力の向上や学習習慣の定着へ向けた取組を進めていくこととしています。また、家庭学習の充実などについても、学校と家庭が連携して児童生徒の生活習慣を見直し、改善へ向けた取組を進めていきます。